

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：32503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25501004

研究課題名(和文) 観光と地域づくりの一体的推進に向けた地域オーセンティシティに関する実証研究

研究課題名(英文) Empirical Study on Regional Authenticity directed at Integral Promotion of Regional Development and Tourism

研究代表者

吉村 晶子 (Yoshimura, Akiko)

千葉工業大学・工学部・准教授

研究者番号：50356052

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：より本質的な観光の発展のためには、対象地域の自律的で持続的な発展・成熟が重要である。健全な地域の持続的な発展・成熟を支える地域のオーセンティシティのしくみ、その根源にある地域の内在的な知の体系について、技術知・文化知・生活知の面から実証的に明らかにするため、選定した国内3事例(稲美町：ため池の水管理、山の辺の道：里山管理、京町家：町家居住)および海外2事例(ブータン西部：伝統的農村集落、中部：伝統的集住集落)において実証データを得、理論モデルを構築した。

研究成果の概要(英文)：Autonomous and sustainable development of the region is essential for both developing tourism and maturing the region. This study makes clear the system of knowledge in three phases: local technology, culture and life, through taking experimental data on regional authenticity that fosters the sustainable development and maturing of the region. Case studies are done on three traditional regions in Japan and two traditional villages in Bhutan. Theoretical studies are also done, and these results were published.

研究分野：景観工学

キーワード：観光 地域づくり 風景

1. 研究開始当初の背景

消費するだけの観光でなく、対象地域の魅力そのものを増すような観光のあり方が求められており、観光庁ビジョンにおいても地域の自律的な観光地づくりが目指されている。一方、地域づくりにおいても、持続的な発展・成熟は重要である。その際、その地域の内部から考えただけでは限界があり、観光の視点、外部からの参入を取り入れることが今後の地域の活性化や成熟の起爆剤になると期待される。

以上の動向と対応し、観光関連分野の既往研究では、コンテンツとしての観光資源に着目した研究、その物語を繙く研究、あるいは複数のネットワーク化による効果に着目した研究等があり、単なる物理的な単体の観光資源の研究を超えた試みが展開されている。しかし、これらは観光に資することを目的とする諸研究であるため、その多くは地域づくりの側にまで踏み込んで関与するものではない。一方、地域づくりに関する諸分野においても、地域の持続性に着目した多様な研究が存在し、活発に展開されているが、多くは研究対象地域内の問題の発見と課題解決に目的を据えるものであり、内外の関係やダイナミクスも含めた研究対象を設定するものは少ない。

2. 研究の目的

より本質的な観光の発展のためには、対象地域の自律的で持続的な発展・成熟が重要である。また逆に、地域づくりにおいては、観光の視点、外部からの参入を取り入れることも必要である。この両輪が実現されれば、地域が健全かつ持続的に発展・成熟し、地域のオーセンティシティが保たれるとともに、それにより観光にもより質の高い持続的な効果が得られる好循環を期待できる。

本研究では、深く本質的なレベルで観光と地域づくりに資する知見を得るため、事例研究により「地域のオーセンティシティを支えるしくみ」を技術知・文化知・生活知の面から実証的に明らかにする。

3. 研究の方法

事例調査分析を行う。対象とするのは、兵庫の稲美町、奈良の山の辺の道、京都の町家、および比較対象事例としてブータンの西部パロ地方の伝統農村集落、中部シェムガン地方の伝統集住集落である。以上の対象地において、地域に内在する知の体系について、地域システムマトリクス法や対象化ヒアリング法を用い、調査手法の確立も同時に行いながら、実証的に把握する。

(1) 技術知の調査分析

地域の物理的環境を形成、維持するには、里山管理や水利管理など一定の知識・技術を要する側面（技術知）がある。その具体的かつ詳細な内容を聞き取り調査する。調査項目

は関与主体の種類（管理主体、所有主体、活動主体等）、組織（個人・家、自治的組織、団体、地域外部組織）、具体的活動内容、およびその時代変遷とし、得られた結果をマトリクス化して分析する（地域システムマトリクス法）。

(2) 文化知の調査分析

技術知を用いた地域の運営（形成、維持）を支える地域の社会的制度について、明文化されたルール（各種取り決め、町式目等）、および暗黙のルール（地域住民の節度、常識等）の双方を調査する。特に後者については、地域の運営に関する技術知の側面をよく承知した調査者による詳細な聞き取り調査が必要であり、これを行う。

(3) 生活知の調査分析

以上のルールが発生する萌芽となり、またその維持を担保するものである地域住民の生活感覚（身体感覚、領域感覚、風景に対する感覚、倫理感覚等）についてヒアリング調査する。その際、住民にとっては当たり前で無意識となっている項目を掘り出す必要があるため、外部者や子孫への説明を意識させる質問項目や、聞き取り結果の地図へのプロットを提示しての再ヒアリングなどを織り交ぜるなど、無意識的項目を顕在化・対象化させることのできる調査設計を行う。これにより詳細なヒアリングを実施する（対象化ヒアリング法）。

4. 研究成果

兵庫県稲美町において、空間構成要素を把握するとともに、ため池の水利用とその管理、水管理の主体となる組織・個人の役割・体制とルール、取り決めや慣習について調査し、両者の関係とその変遷を把握した（図1参照）。

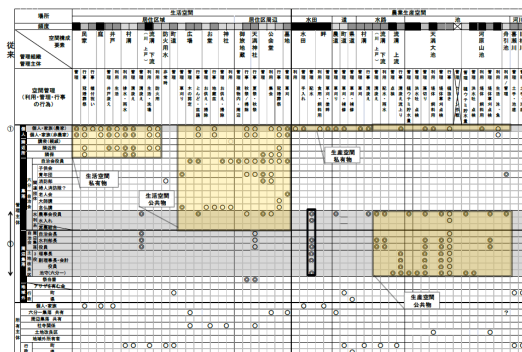


図1 稲美町における空間構成要素と社会組織との関係

山の辺の道においては、里山の管理について調査し、また奈良盆地東部の長期居住者を対象とした場所の記憶・認識調査により、少年・青年期の原体験が現在の場所認識に大きな影響を与えている事が明らかになった。

京町家については、建具替えや年中行事、

および空間的な作法秩序について調査し、空間の意味的諸相、空間認識とその獲得過程について把握した。

また、以上に対する比較事例として、伝統住居に住み、里山を利用する生活をしているブータン王国西部パロ地方の伝統農村集落、および中世からの都市的集住形態をもつ中部シムガン地方の伝統集住集落を選定、同様の調査を実施、土地の所有、利用と管理について把握した(図2参照)。

図2 ブータン中部伝統集住集落における空間構成要素と社会組織の関係

以上の成果は雑誌論文、国内外の学会発表、

No	Spatial Elements	Social Elements													
		WHO OWNS?					WHO CONTROLS / MAINTAINS?								
		Individual / Family	Community	Quasi-public Organizations	Religious Organizations	Nationality / National Government	Government	Operations	Individual / Family	Community	Quasi-public Organizations	Religious Organizations	Nationality / National Government	Government	Operations
1	Street														
2	Fence														
3	Fence (with Wood / Bon Wtri)														
4	Residue (along Street)														
5	Building (Checkpoint)														
6	Garbage Can														
7	Building (in Market)														
8	Electric Pole / Wire														
9	Road (old Road)														
10	Water Supply Chamber														
11	Car Parking (West)														
12	Retaining Wall (Beside Parking)														
13	Water Supply Chamber														
14	Building (Pvt. Com. below Parking)														
15	Building (Pvt. Com. w/ Wall)														
16	SHAKANG (Inside Bank)														
17	Water Hydrant														
18	Water Supply Chamber														
19	Income Barrier (SANG THAB)														
20	Steps (Beside Mani (Gat))														
21	Steps (Beside Steps)														
22	Storage (Club on the Slope beside Steps)														
23	Backyard (Below Steps)														
24	Open Terrace														
25	Passage														
26	Benches														
27	Building (Pvt. Com.)														
28	Water (Tap) (LIVING TA)														
29	Electric Pole / Wire														
30	Electric Light														
31	Market														
32	Market (Pvt. Com.)														
33	Public Toilet														

All the spatial elements that exist on a certain section passing through Trong village were investigated and grasped in great detail. Spatial elements shown with a gray background are the elements in complex with cross-sectional space use and activities by heterogeneous actors.

These results are based on the unofficial remarks of the village mayor in the field survey and the interview on the 15<sup>th</sup> of September 2015. They ought to be validated through further multiple field surveys and interviews.

\*1: ● shows the main actors related to each spatial element.  
\*2: ○ shows the complementary actors related to each spatial element.  
\*3: □ shows the actors related to each spatial elements through social systems such as laws, policies, or subsidies.

および書籍(分担執筆)にて発表した。

### 5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

磯野綾・吉村晶子・金子将大：ブータン王国パロ県の農村集落チュバ及びアツォにおける伝統住居の屋内平面空間構成に関する研究：各部屋の現地ゾンカ語呼称と用途に着目して。日本建築学会計画系論文集；81(724), pp.1315-1324, 2016年6月(査読有) DOI <http://doi.org/10.3130/aija.81.1315>

[学会発表](計 14 件)

Akiko Yoshimura, Keijiro Yamada, Yoshinori Iida, Hideaki Kawasaki, Yuko Nagamura, Naho Dokyu, Tashi Penjor, and Ugyen M Tenzin: How to determine essential values of landscape to be preserved? An Interdisciplinary challenge in Trong Village of Zhemgang, Bhutan. Landscape Values Place and Praxis International Conference, Galway, Ireland, 2016年6月29日~7月2日

吉村晶子・小泉俊雄・川崎英明他：ブータン王国西部地方における伝統的集落調査その1 調査の設計, 2015年度日本建築学会大会, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市), 2015年9月4~6日

湯川竜馬・山口敬太・久保田善明・川崎雅史：地域の「経験資源」の顕在化手法に関する実践的研究。第51回土木計画学研究発表会, 土木計画学研究・講演集 No.51, CD-ROM, 九州大学(福岡県福岡市), 2015年6~7日

吉村晶子：熟練河川景観デザイナーによる紙地形図の読図法。景観・デザイン研究発表会, 景観・デザイン研究講演集, No.9, pp.286-297, 東京工業大学(東京都目黒区), 2013年12月14~15日

山田圭二郎, 田中ひかる, 吉村晶子：京町家における空間認識とその獲得過程に関する基礎的研究 その1 空間認識における意味的諸相。2013年度日本建築学会大会, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.161-162, 北海道大学(北海道札幌市), 2013年8月30日~9月1日

田中ひかる, 吉村晶子, 山田圭二郎：京町家における空間認識とその獲得過程に関する基礎的研究 その2 意味的空間を規定する装置に着目した関係性の構造。2013年度日本建築学会大会, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.163-164, 北海道大学(北海道札幌市), 2013年8月30日~9月1日

吉村晶子, 田中ひかる, 山田圭二郎：京町家における空間認識とその獲得過程に関する基礎的研究 その3 空間認識の獲得過程に関する結果と考察。2013年度日本建築学会大会, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.165-166, 北海道大学(北海道札幌市), 2013年8月30日~9月1日  
他7件

[図書](計 2 件)

吉村晶子：第 章 伝統住居集落における聴取調査, 第 章 ブータンにおける土地政策, 地籍調査と測量。ブータン伝統住居西部チュバ・ニャンメイ編：伝統住居の生活と土地政策 + 5年間の調査記録, ADP, 2015.8 ( ISBN: 978-4903348452 ), pp.175-200

吉村晶子：第 12 章 風景論の展開：構造と反構造, 形と場のゆらぎのダイナミズム。田路貴浩・山口敬太・斎藤潮(編), 日本風景史：ヴィジョンをめぐる技法, 昭和堂, 2015.2 ( ISBN: 978-4-8122-1432-9 ), pp.379-423。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉村 晶子 (Yoshimura Akiko)  
千葉工業大学・工学部・准教授  
研究者番号：50356052

### (2) 研究分担者

山田 圭二郎 (Yamada Keijiro)  
金沢工業大学・基礎教育部・准教授  
研究者番号：00303850

星野 裕司 (Hoshino Yuji)  
熊本大学・自然科学研究科・准教授  
研究者番号：70315290

笠原 知子 (Kasahara Tomoko)  
東京工業大学・社会理工学研究科・助教  
研究者番号：80452019

山口 敬太 (Yamaguchi Keita)  
京都大学・工学研究科・助教  
研究者番号：80565531